

スリナム月間情勢報告 (2019年5月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 一部人事刷新のために内閣改造が行われ、4人の新閣僚が任命された。
- 米ドルの流通不足で米ドル高が続く中、中央銀行は民間銀行に外貨の一部を中央銀行特別勘定に入金する措置を発表した。
- 外交面では、コロンビア、インドネシアの外務大臣、アンティグアの首相等が来訪した。

2. 内政

- 8日付スリナム紙は、4月にサムソディン区画計画・森林管理大臣が辞任して以降、同省は後継大臣不在の状態が続いており、野党側は政権側の苦境を示すものと批判したと報道。
- 14日付スリナム紙は、4月に辞任を申し出たソージャン農業大臣の地位は依然不明で、議会の答弁はベンショップ国防大臣が代行すると発表されたと報道。
- 16日付スリナム紙は、ポータッセ大統領は、変動する現下の情勢に適切に対応するためとして、4人の新閣僚（パーメッサー農業畜産漁業大臣、アキエンボト天然資源大臣、チョカン公共事業運輸通信大臣及びミシーカバ社会問題住宅大臣）を任命したと報道。また、同日付報道で、ソージャン前農業大臣は区画計画・森林管理大臣に任命された。

3. 経済

- 9日付スリナム紙は、中央銀行の米ドルとの公定為替レートは7.420スリナムドルであるが、米ドル流通不足により実勢レートは8.25まで上昇と報道。18日付スリナム紙は、16日ポータッセ大統領は米ドルの為替レートを7.75スリナムドルまで引下げるための措置を取ると述べたと報道。
- 15日付スリナム紙は、14日の国会での予算審議でサング貿易大臣は、隣国ガイアナの来年の石油生産開始に関して、スリナムもサービス、観光や貿易の機会を活用しなくてはならないと述べたと報道。
- 16日付スリナム紙は、ポラック＝ビゲリ外務大臣は、国会の予算審議の際にスリナムは外交努力の結果、昨年及び今年第1四半期で合計約8,300万米ドル相当の支援（無償協力や技術協力）を得たと述べたと報道。

- 27日付スリナム紙は、中央銀行は、外貨準備高保有の方式を変更し、民間銀行に義務的外貨準備高を設定し、ユーロはその全額、米ドルはその半額を中央銀行の特別勘定で管理すると発表したと報道。
- 28日付スリナム紙は、スタットオイル社及びその契約国際企業は、04年から18年6月まで、スリナムの地域社会に560万米ドル以上の貢献を行い、その39%が医療、27%が教育分野と発表したと報道。
- 30日、アフリカ・カリブ・太平洋（ACP）地域代表会合が開催され、ウーダド財務大臣の議長の下、EUの支援、コトヌー協定後の交渉等を協議したと報道。（6月3日付報道）

4. 外交

- 3日付地域紙は、4月末にアディーン副大統領及びポラック＝ビゲリ外務大臣がガーナを訪問して開設した在ガーナ・スリナム大使館は、スリナムが在南ア大使館を閉鎖して以降、初のアフリカでの大使館であり、同副大統領は、両国の政治、経済関係を拡大する新たな時期に入ったと述べたと報道。
- 7日付スリナム紙は、スリナムは高森林被覆低森林減少国グループの創始国としてニューヨークで開催されている国連森林フォーラムに出席中であり、気候変動対策における森林部門の重要性を強調すると報道。
- 17日付スリナム紙は、16日來訪中のトゥルヒージョ・コロンビア外務大臣は、ポラック＝ビゲリ外務大臣と会談し、農業、観光、査証免除や航空協定の検討などの両国間の協力を取り上げ、両外務省間の協力覚書が署名されたと報道。
- 20日付スリナム紙は、同日来訪中のルトノ・インドネシア外務大臣はポラック＝ビゲリ外務大臣と会談、ボータッセ大統領を表敬訪問し、両国間の関係強化等を協議したと報道。
- 21日、スリナムは、米州機構でのニカラグア人権違反決議案に対し、ニカラグア及びセントビンセント共に反対票を投じた。
- 28日付スリナム紙は、27～29日に独で開催される中南米カリブ地域フォーラムにポラック＝ビゲリ外務大臣が出席していると報道。
- 29日付スリナム紙は、28日ボータッセ大統領は、來訪中のブラウン・アンティグア首相と会談し、2国間関係の更なる強化につき協議した、ブラウン首相は、カリブ開発基金からの支援31万米ドルを利用した両国間の農業生産及び貿易促進を支援すると発表したと報道。
- 29日付スリナム紙は、ポラック＝ビゲリ外務大臣はジェッダで開催された第14回イスラム協力機構首脳会合に出席した際に、デュセ・トーゴ外務大臣と会談し、外交公用旅券の査証免除取り決めに署名したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。